

平成24年度学校評価シート（重点課題1 学力の向上）

重点課題	学力の向上
具体目標	県学習状況調査の本校平均が、県平均を1.5ポイント以上上回る。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・理数系科目に弱点がある。 ・上位層と下位層の二極化が見られる。（しかも、下位層が厚い二極化）
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・理数系科目の強化のため、「問題解決的（探究的）な学習」スタイル及び「協同的な学習」スタイルの定着を図る。 ・二極化に対応するため、少人数学習を充実強化する。

P

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールマニフェストによる到達指標（数値目標）の設定 ・指導のガイドライン「あかまつスタンダード」の共通実践 ・「あきた型算数授業」の共通実践及びあきた型スタイルの他教科への波及 ・5・6年算数での「コース別学習」の大幅導入 ・全職員体制による「フォローアップ月間（年3回）」の実施 ・小・小連携、小・中連携授業の実施 ・秋田大学等との連携授業（訪問・出前）
--------	--

D

1 H24 県学習状況調査結果

本校平均と県平均の差の推移
(4～6年合計)

現6年生の経年変化
(県平均との差の推移)

現5年生の経年変化
(県平均との差の推移)

Q 分からないことでも、自分の力で答えを見付けられるよう勉強したい。

2 スクールマニフェスト成果指標の達成度（抜粋）

成果指標	今年度実績	達成度	前年比
県学習状況調査通過率の平均（4～6年）が、県平均を1.5ポイント以上上回る	+8.0P	AA	↗
算数単元テストの定着率平均が、県平均を2.0ポイント以上上回る	+0.5P	B	↗
理科単元テストの定着率平均が、県平均を2.0ポイント以上上回る	+1.9P	B	↘

D

	児童授業アンケートで授業満足度、93%以上	96.8%	A	↗	
	5・6年算数授業でのコース別学習の実施率、30%以上	69.7%	AA	↗	
	外部人材等との「コラボ学習」の実施回数、12回以上	12.3回	A	↗	
	フォローアップ学習の実施回数、24回以上	29回	A	↗	
3 保護者による学校満足度調査結果 ・学校での教科の指導について分かりやすいと言っているか。 86.6% (+7.6P)					
教職員による自己評価	(前期) B	(根拠) ・全国学力・学習状況調査結果をみると、特に算数において二極化の傾向、どちらかというと下位層が厚い二極化の傾向が見られた。下位層の一定の底上げを図ると同時に上位層のさらなる進展を図るためには、TT授業だけでは限界がある。			C
	(年度) A	・重点克服教科であった算数と理科は、県学習状況調査における県平均を上回り、おおむね良好な結果だった。また、5・6年生算数・理科の経年変化を見ると、どちらも右肩上がりになっており、改善傾向が見られる。 ・後期の5・6年算数は、全時間「コース別学習」としたが、算数の好結果はその成果と考えられる。 ・社会も順調に伸びており、「問題解決的(探究的)学習」スタイル及び「協同的な学習」スタイル定着の成果と考えられる。 ・国語が下降気味である。特に長文の読解に課題がある。			
C・S推進委員による学校関係者評価と意見	(前期) A	(意見) ・弱点であった算数と理科が順調に伸びている。算数はコース別学習の成果がはっきり出ている。算数に付随して他教科も伸びている。			C
	(年度) A	・学力がアップしたのは、子どもたちが家庭学習の仕方を身に付けたのが大きい。 ・国語が下降しているが、辞書を引くなどして「自分の力で調べる」活動を充実させたい。また、読解力の向上は、やはり読書がカギ。			
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、「問題解決的(探究的)学習」スタイル及び「協同的な学習」スタイルを継承しつつ、国語を主な研究・研修教科と設定しながら、読解力の向上に向けて各教科・領域等において言語活動の一層の充実を図る。(NIE導入を検討する。) 読書環境の充実に向けて、学校図書館の機能を充実させる。「調べ学習」に対応した蔵書を増強するほかに、図書館ボランティアの導入などにより児童が「足を運びたくなる図書館」へのリニューアルを図る。 				A

〔評価基準〕

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない